



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2019年8月4日

No. 63

キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、
愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

ガラテヤの信徒への手紙 5章6節



礼拝献花より

神と共に 人と共に

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『座って生きる』

牧師 佐藤和宏

ルカ10章38節～42節

定年教師の賀来周一先生は、社会は「する」ことで人を評価するが、神は「いる」ことで人を評価すると言われています。

マルタは、主イエスが家に来られたので、もてなしたいと考えました。それはマルタのイエスへの愛の表現方法であつたにちがいありません。マルタは「する」人であつたのですが、それは評価を求めての行動ではありませんでした。ですから、彼女のもてなそうとした態度そのものが今日の問題ということではないでしょう。

マルタは、イエスをもてなそうと、イエスへの愛を表そうと、あれもこれもと「いろいろのもてなし」に心を奪われてしまいました。それが「せわしく立ち働いていた」と表現されていることなのです。そして、「せわしく立ち働いていた」マルタは、やがて妹のマリアが座り込み、イエスの話に聞き入っているのを見え、不

満に思うようになったのです。マルタは自分と同じように、マリアにも「する」ことを要求するようになったのでした。このことから問題となっているのは、マルタが「いる」人であつたマリアにも、自分と同じように「する」ことを求めたことであつたとわかります。

マリアに目を向けてみますと、マリアは、「主イエスの足もとに座つて、その話に聞き入っていた」とあります。マリアは、そこに「いる」だけでした。イエスをもてなそうと、「せわしく立ち働く」マルタとは実に対照的な姿がそこにあるように見えました。実際、マリアは「いる」だけで何もしていないように見えました。マルタの方が「生産性」という点からするなら、役に立っているように見えます。しかし、実はマリアもまた、主イエスをもてなしていたのでした。それは「する」ことによるもてなしではなく、「いる」ことによるもてなしでした。マリアのもてなしは、イエスの語られる言葉を聞くというものでした。「聞いてもてなした」というのですから、マリアも聞くという「する」ことでもてなしたかのように

思われます。しかし、主イエスの足もとに座つて、その話に聞き入るというマリアですが、ここで「座る」と訳された言葉は、「自分の場所を誰かの脇に取る」という意味の言葉になるのです。「自分の場所を誰かの脇に取る」というのですから、自分を中心とすべき方の脇に「いる」ことになります。これがマリアの「いる」ことによるもてなしであり、主イエスはそれを指して「良い方を選んだ」と言われているのです。つまり、今日私たちが問われているのは、「自分の場所を誰の脇に取つて生きているか」ということになるのです。

私は「いのちの主語」ということについて、これまで繰り返しお伝えしてまいりました。「する」という言葉、あくまでもこの主語が自分自身であることを譲っていないあり方であると思います。一方、「いる」という言葉、「誰かの脇に自分の場所を取る」ことにつながりますから、主語はもはや私ではなく、その誰かなのです。その誰かの脇に場所をとることで、私たちは安心して「いる」ことができるのです。

礼拝は、神が「いる」ことで私たち

ちを良しとしてくださるそのときなのです。それは、「する」ことが求められる日常の慌しさの中で座り込むことは無駄なことのように思われるでしょう。さまざまな忙しさに、そのもてなしを受けるよりも、大切なことがあるように思われることもあるでしょう。私たちには、社会の中で生きる時、大切なことがたくさんあるように見えて、またあれもこれもしなければならぬことがあるように思われて、次第に周囲へと引つ張られるような生き方をしていることがあります。ですから、私たちは日々の生活において、「周囲に」、すなわち命の中心ではないものへと引つ張られている自分に気づくことが大切であり、そこから解放されるために、この礼拝の場に来て、主の脇を自分の場所として、そこに座つて生きるのです。なぜならこの礼拝の場こそ、主が私たちをもてなしてくださる時間にほかならないからです。私たちを新しいのちに生かすために、奉仕してくださる主の脇を自らの場所として、座り込む。毎週の繰り返しによって、私たちは生きるのです。(聖霊降臨後第7主日)

初夏のゴスペルコンサート

江〇〇子

6月22日、ついに「初夏のゴスペルコンサート」の日がやって来ました。梅雨の真っ只中、雨が降らないようにという願いも空しく、残念ながらの雨。これならば「梅雨のゴスペルコンサート」と銘打った方がよかったのではと思いつつも、何と61名の方々がいらしてくださり、大変

驚きました。教会員の皆様の口コミとチラシ配布で、外部の方々44名いらしてくださったことは、教会へ続く道の一步を皆様が後押ししてくださったと思います、感謝の気持ちで一杯です。塩谷達也さん、美和さんご夫妻は、日本のゴスペル界を引っ張っていくお二人で、「第6回女性の集い」(本郷教会に於いて)に参加した時に、塩谷達也さんの力強い歌声に感動しました。藤が丘教会でのコンサートをお願いしたところ、快諾して頂きました。

の出会いから生まれた希望と神の愛をメッセージとして受け取ることも出来ました。日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の信徒であるお二人の証にも心を打たれました。美和さんの思春期の葛藤から壮絶な青春時代、ゴスペルとの出会いと受洗の証は、神様はいつでもどこでも、そしてどのような状況においても寄り添ってくださり、私たちを愛してくださると言うことを改めて示してくださいました。

第一部は、お二人の力強い歌声から始まりました。ゴスペルはアフリカから連れて来られた奴隷たちが雇い主に見つからないようにと布や織物を濡らし、テントの形にして、その中で神に出会い、賛美し信仰を守り続けたと言われています。

お二人の歌われた黒人霊歌2曲には、当時の人々の信仰を守りながらも、深い川底に沈む苦しみと悲哀も感じましたが、同時に神と

第二部は、「ワークショップ」と言う試みでしたが、お二人のリードで初めてゴスペルを歌う方々も多くいらしたと思います。最初小さかった歌声は、段々と大きくなり、手を叩きながら体でリズムを取り、思い切り声を出して、皆で歌う一つのゴスペルソングになっていきました。一人ひとりの思いと神への賛美、そして隣りに座った人への優しい気持ちを歌の翼に乗せながら。

楽しかった2時間のコンサートは、あっという間に終わりました。雨の中、家路へ向かう皆様は、大変穏やかな表情を浮かべていらっしやいました。



後日、友人たちから何通かのメールを頂きましたので、ご紹介を!!

「生まれて初めて教会に入り、牧師さんを初めて間近で見た。とっても楽しかったです。」

「ゴスペルを聞いて、心が震えました。明日からの元気をもらいました。」

ゴスペル、そして歌の力の強さを改めて感じました。塩谷さんご夫妻、雨の中いらしてくださった方々、準備をしてくださった方々、佐藤先生と委員の皆様、そしてコンサートの時に共にいてくださり、見守ってくださった神に感謝いたします。

―日吉教会での 「第25回宣教フォーラム」のこと―

参加者の感想から

7月6日土曜に、東教区宣教フォーラムが開かれました。

会場は、「2年前に改築された教会は内・外装ともに白を基調としていた清潔感を醸し出している建物、整然と並ぶ高窓や天窓から差し込む優しい光が会堂内の空気を鎮め、細かな間隔で並び設けられた木調の梁が優しさと温かさを演出(田○兄)、そして「天井の高さにびっくり、とても礼拝堂が大きくて素晴らしく思ったのが第一印象(小○姉)」、そして入山夫妻にとっては母教会だった日吉教会。「新しくなった会堂で懐かしい方々にお会い出来たのも嬉しいことでした(○山姉)」。藤が丘教会からは、会場教会に次ぐ17人の参加でした。

今回のフォーラムは「日本の伝統の中に生きる私たち」というテーマでの、3年企画の2年目で、仏教とキリスト教の死生観を考える一日でした。

天候にはあまり恵まれず「雨の

中でしたが、たくさんの方々が参加されていてテーマについて、如何に皆が興味を持って

いるかわかりました(長○川○瀬姉)」「テーマはとても魅力的で興味のあるもの(○山姉)」、「今回のフォーラムのタイトルを見て、とても楽しみにしていました。レジュメの原稿を改めて読み直してみると、ぜひとも拝聴したかった企画で(○山兄)」、会場いっぱい参加者数でした。日吉教会に転出された○比良姉は、とてもお元気でした。

開会の祈りと説教の後、午前中は浄土真宗厳念寺の菅原建住職の講演。「日本人なら葬祭などで仏教に触れる機会も多く、知っているはずなのに実は何も知らない仏教の基本的な教え。菅原住職がそれをわかりやすく話してくださいました。特に『人はなぜ死ぬの?それは生まれてきたから』という単純明快な倫理は、スーッと腑に落ちました。(○田さん)」「菅原住職のお話が印象的でした(小○さん)」と、お話も質疑応答も好評でした。

午後は、東京基督教大学の大和昌

平教授の講義で始まり、(残念ながら予定より短い時間でしたが)、続けてシンポジウムがありました。

シンポジウムは都南教会の立山牧師の司会で進められ、「非常に興味深い講演会、予想通りシンポジウムも面白かったです。宗教は違っても葬儀の意味は共通、家族を失った悲しみに参列者は寄り添う(○谷姉)」であり、「全く違う宗教のそれぞれの話がうまくまとめられ、求めているところ、求められているところは共通しているのでは(○山姉)」、「天国へ帰ることが『死』であるとはつきり認識(○岡姉)」する機会だったと、感想をいただきました。

昼食後のひとときに東教区聖歌隊の奉唱があり、「力強く美しいハーモニーが、会堂内に心地よく高らかに響き(田○兄)」、テーマにちなんだ讃美歌を含む2曲を参加者と一緒に「広々と気持ちのいい会堂で140余人での合唱、とても元気

が出ました(○山姉)」。

宣教フォーラムの実行委員長は藤が丘教会の田村兄で、今回、田○兄が提案された「フォーラム川柳」は面白かったですね。実行委員会には「仏教に教えられることの多い(○田姉)」「今回の企画で来年も再チャレンジされては如何でしょうか、楽しみにしています(○山兄)」、「是非また第2弾をしてもいいのでは(○山姉)」と、リクエストをいただきました。



また会う日まで

〇木〇子

電話で山〇〇雄さんの訃報を聞いた時、寂寥感に包まれました。

この数年間、新町教会で親しくしていた人たちが、旅立って行かれました。足立さん、藤本先生、西〇さん、そして山〇さんと、とても寂しいです。

新町教会は小さな教会でしたので、一人ひとりの間が近い関係での交わりができていたと思います。

〇立さんには、大和言葉のこと、論文の書き方のアドバイスをしてもらったり、話す機会がありました。

山〇さんは黙して語らずのタイプでしたので、あまり話すことはありませんでした。とても真面目で、与えられた教会の仕事を黙々とこなしていました。山〇さんに頼めば安心できました。なかなか話す機会がなかった山〇さんでしたが、栗原先生が九州から上京するので、私の家に立ち寄りたいと連絡を受け、その旨を山〇さんに伝えると自分も会いたいと言われ、礼拝後一緒に帰りました。栗原先生が到着するまでの間、



■ 85年クリスマス礼拝にて。正面に向かって左手最前列。山〇さんの定位置でした。

家族のこと、健康のことなどなど、話したことを思い出します。その内〇原先生が着き、山〇さんは嬉しそうに話されていました。

名〇夫妻、関〇さん、田〇〇子さんが見えて一緒に食事をとったのですが、例の遠慮深さで、今日はありがとうと帰って行きました。

その後、体調を崩され、礼拝にも来られなくなり、年賀状でお互い元氣であることを確認していました。

今年の年賀状で、住所が溝ノ口と書かれていて、近いので会いに行きたいなど考えていた時、訃報の知らせを受け、早く行けば良かったなと後悔しました。

山〇さん、会いに行けなくてごめんさい。

また、あちらで会いましょう。

山〇〇雄兄のこと

〇田〇子

山〇さんとは世田谷新町教会でお会いしました。真面目で誠実なお人柄のジェントルマン。会計係として、小さな小さな教会を陰で支えておられました。

その新町教会が藤が丘教会に吸収合併されることとなり、新町教会の経済的配慮に教会移転に伴う多くの雑用が加わり、会計係としてさぞ頭を悩ませておられたのでは。呑気だった私は、今になって頭の下がる思いが生じます。

教会が移転してご自宅から遠くなってしまっただけから、山〇兄は藤

山〇〇雄さんの自己紹介

「学校を卒業するとすぐ現在の会社へ入社いたしました。会社は国電大崎駅より百反通りに歩いた所にある、さらに会社より15分位行った所に池上線の桐が谷駅のそばにルーテル五反田教会がありました。会社は大変忙しく休日出勤が多かったの

が丘教会のことをいつも気にかけておられました。時折お菓子セット等の差し入れを教会に送って下さり、皆で美味しくいただきました。

晩年、耳が遠くなられて電話での会話は難しいとのこと、クリスマスやホームカミングデイ等、機会に応じて写真付きメールで教会の様子をお伝えすると、とても喜んで下さいました。亡くなる前週にも「今年の教会総会の資料を送って欲しい」旨のメールをいただき、左藤先生にお願いしました。本当に、最後の最後まで藤が丘教会のことを心に留めていて下さいました。ありがとうございます。

どうぞ神様の御許で、安らかに過ごして下さい。

で、休日出勤退社後五反田教会の夕礼拝に通いました。夕礼拝と言っても福山牧師と私の他に明電舎の社員の方計3人でした。福山先生の勧めで当時盛んであったルーテルアワーの通信講座を受講し修了した年のイースターに福山先生より洗礼を受けました。」「(藤が丘だより) 1985年12月号より抜粋)

田○さんをお訪ねしました。

南町田の施設に移られたばかりの田○○子さんをお訪ねしました。以前にも増して、とてもお元氣な様子で、新しい環境に満足しておられるようでした。そして久しぶりに、聖餐式をすることができました。

今回は、○井さん、田○さんがご同行くださいました。旧知の信徒さんの訪問は、とても喜ばれます。不定期ですが、信徒訪問を続けています。お会いしたいと思われる方がおられましたら、お声かけをお願いします。



ます。日程等、ご相談と一緒に出かけましょう。

今月の受洗記念日の皆さん

24日 ○田○郎兄

26日 ○田○子姉



おめでとーございます。



喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
ローマの信徒への手紙 12 章 15 節
藤が丘教会ウェブサイト <https://www.jelc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前 10 時半)

教会の動向



紙面の都合上、久しぶりの「教会の動向」です。

7月の教会は、3日と17日に聖研がありました。5日、洗礼後の学びがありました。4日、世田谷新町教会からの信徒で、藤が丘教会の草創期から役員として、教会を支えてくださった山○雄さんが召天され、8日、世田谷区の斎場にて家族葬が営まれました。

7日の礼拝では、こどもメッセージ、聖餐式があり、礼拝後、定例役員会がありました。10日はお仕事会でした。

14日の礼拝後、月報委員会、フェスタ+伝道支援金合同委員会があり、それぞれ秋以降の計画が確認されました。16日には、手仕事サロンがありました。

21日の礼拝後、宣教委、女性会がありました。24日には、江○さんのお宅で、家庭集会がありました。28日の礼拝後、エウテイコ(学びの会)がありました。

6、7月の礼拝に初めて(もしくは

は久しぶりに) 来られたのは、○藤○志夫さん、早○さん、赤○透さん、○藤○香さん、○原早○さん、○村○樹さん、真○美さん、瑠○さん、ナ○ビ○恵さん、○原さ○りさんでした。主の祝福をお祈りします。

牧師室より

教会のウェブサイト「カレンダー」が設置されており、教会の行事や教会利用者の予定を確認することができます。また、主日の日課も確認できるようになりました。ぜひ、ご利用ください。

毎週礼拝ライブ中継を配信していますが、6月の終わりより一つの試みとして、ライブ中継の宣伝をしています。宣伝によって、数多くの新しい方々が視聴されるようになりました。特に興味深いのは、反応してくださる方に外国の方が多いということです。おそらく、その多くは日本在住の方で、普段教会に通うことができないのではないかと想像しています。直接、藤が丘教会とつながらなくても、御言葉に出会う機会となればと願っています。